

(546) 有限要素法を応用した伝熱境界の推定法

新日鉄 生産技術研究所 ○福田敬爾 有吉敏彦

1. 緒言 一般に鋼板等の冷却設備は、冷却方式としてラミネー、フラットスプレやジェット水流等が使用されており、その冷却パターン、鋼板の表裏面温度が激しい変化を伴う場合、しばしば材質や形状に影響をもたらすことがある。そのため伝熱境界の解析が必要であるが、鋼板内部の測温結果から境界条件、すなわち表面温度と熱流束を推定することは、境界条件の変化が激しいと格段に難しい。ここに、熱伝導方程式に則した解法として、有限要素法の解の安定性に着目して、最小自乗法と組合せた境界同定法と、その解析例を示す。

2. 方法 一次元非定常の熱伝導方程式に仮想変化 $\delta\theta$ を掛けて時空で積分すると

$$\delta x = \int_s^p \left[\int_a^b \rho c \frac{\partial \theta}{\partial t} \delta \theta dx + \int_a^b \kappa \frac{\partial \theta}{\partial x} \frac{\partial \delta \theta}{\partial x} dx + q_a \delta \theta_a + q_b \delta \theta_b \right] dt = 0 \quad (1)$$

ここで θ : 温度, ρc : 熱容量, κ : 熱伝導率, q_a, q_b : 境界熱流束
となり、温度を $\theta = \alpha_0 + \alpha_1 x + \alpha_2 t + \alpha_3 x t$ と置いて有限要素法を適用すると

$$\left\{ \begin{array}{c} \rho c (b-a) \\ 12 \end{array} \right\} \begin{bmatrix} -2 & -1 & 2 & 1 \\ -1 & -2 & 1 & 2 \\ -2 & -1 & 2 & 1 \\ -1 & -2 & 1 & 2 \end{bmatrix} + \frac{\kappa (p-s)}{b-a} \begin{bmatrix} 2 & -2 & 1 & -1 \\ -2 & 2 & -1 & 1 \\ 1 & -1 & 2 & -2 \\ -1 & 1 & -2 & 2 \end{bmatrix} \begin{Bmatrix} \theta_{as} \\ \theta_{bs} \\ \theta_{ap} \\ \theta_{bp} \end{Bmatrix} + \frac{p-s}{2} \begin{Bmatrix} q_{as} \\ q_{bs} \\ q_{ap} \\ q_{bp} \end{Bmatrix} = 0 \quad (2)$$

と等価な連立方程式を得る。今時間 j (1~m), 空間の点 i (1~n) の温度 θ_{ij} , と境界熱流束 q_{aj}, q_{bj} を変数とし $(X_{ij}) = (\theta_{1j} \theta_{2j} \dots \theta_{nj} q_{aj} q_{bj})$ に対し全体の行列を組直すと

$$\begin{bmatrix} A_{11} & B_{12} \\ C_{21} & A_{22} & B_{23} \\ & C_{32} & B_{m-1m} \\ & & C_{mm-1} & A_{mm} \end{bmatrix} \begin{Bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_m \end{Bmatrix} = [A] \{x\} = 0 \quad (3)$$

ここでA, B, Cは n 行 $n+2$ 列の行列、よって $(n+2) \times m$ 個の変数に対し $n \times m$ 個の制約式を得る。一方冷却実験では L ケの測温点の実測温度 $\theta_{\ell j}$, $\ell \in L$ が得られるので、(3)の制約の下に誤差 $\sum (\theta_{\ell k} - \hat{\theta}_{\ell k})^2$ を最小にするため $(n+2) \times m$ 個の未定常数(y)を用い

$$V = \sum_{k=1}^m \sum_{\ell \in L} (x_{\ell k} - \hat{x}_{\ell k})^2 + (y) [A] \{x\}$$

を最小にすればよい、 x_{ij} で微分して

$$\begin{bmatrix} [A] & [0] \\ [\lambda_i \delta_{ij}] & [A]^T \end{bmatrix} \begin{Bmatrix} x \\ y \end{Bmatrix} = \begin{Bmatrix} 0 \\ \lambda_i \hat{x}_{ij} \end{Bmatrix} \quad \begin{array}{l} \lambda_i = 1 \quad i \in L \\ = 0 \quad i \notin L \end{array}$$

を得る。

3. 解析例 図に下部フラットスプレ冷却時の解析例を示す。

上図の破線は表面より 1.5, 4.5, 8 mm 内側の測定温度を示し、この変動する測温値から推定した表面温度が実線である。また下図は推定した表面温度と熱流束より換算した熱伝達率でピーク値は $1 \sim 3 \times 10^4$ 程度とほぼ妥当な結果が得られた。

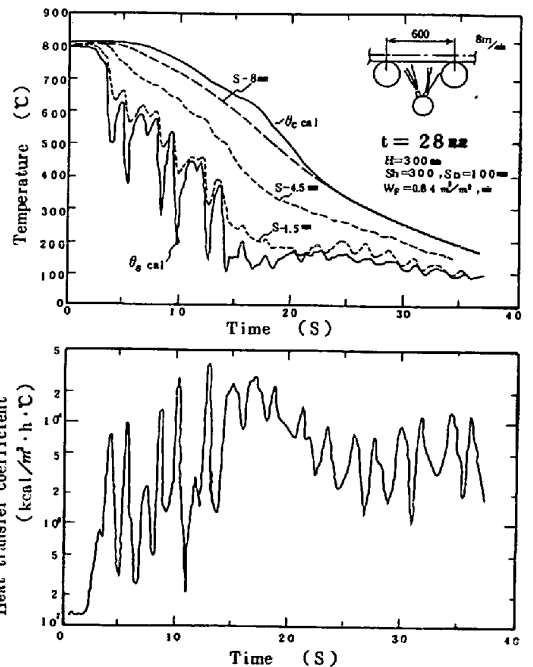


Fig. Temperature change and Heat transfer coefficient change with time for Lower flat-spray cooling.